

平成30年度 上伊那圏地域自立支援協議会議事録

|        |   |                               |      |     |    |                    |
|--------|---|-------------------------------|------|-----|----|--------------------|
| 会議     | 部会名   | 第2回就業支援・第2回療育合同部会             | 参加者数 | 44人 | 会場 | いなっせ<br>501・502会議室 |
|        | 日時  | 平成30年8月3日(金)<br>13:30 ~ 15:40 |      |     |    |                    |
| 主テーマ   | 1 あいさつ<br>2 事例検討:「普通高校から就職したが離職。その後就労移行支援につながった事例」<br>3 その他   |                               |      |     |    |                    |
| 主な意見など | 1 について(辰野アドバイザー)<br>・障がい福祉には、当事者に合わせて、たくさんのサービスや事業を上手に組み合わせて支援を構築すること及びスムーズな流れの中で切れ目のないライフスタイルを確立していくという2つの大きな課題がある。<br>・療育から就業へ、切れ目なく支援が継続できる「つなぎ」の重要性をともに考える合同部会としてほしい。<br>2 について(参加者全員)<br>(1) 事例検討の趣旨説明(宮内就業支援副部長)→答えを出すことではなく、知識の蓄積が目的である。<br>(2) 事例発表 (略)<br>(3) 事例検討(1グループ6~7人、計6グループに分かれて実施)<br>ア 自己紹介(司会・記録・発表者等の選定含む)<br>イ 個人ワーク<br>【検討事項】<br>(ア) 高等学校までの学齢期にどのような支援、つなぎができたか(主に療育的側面からの検討)<br>(イ) 就業に向けてどのような取り組み、支援が必要か(主に就業支援的側面からの検討)<br>ウ グループワーク<br>・個人ワークをもとに、2つの検討事項に沿って各グループで討議を行った。<br>エ グループごとの発表<br>・各グループの発表者が、グループ討議で話された内容の要点を発表し、全体で共有した。<br>・発表後、他グループの参加者1名から発表をきいて思ったことや感想などのコメントの提示が行われた。<br>・療育、就業支援各々の立場から、多様な意見が出された。中でも早期支援や医療との関わり、本人・家族の障がい受容や家族支援の重要性、情報のつなぎや連携の大切さに言及する意見が多く出された。<br>オ 発表を受けての全体協議<br>(ア) 学校の立場より(福澤就業支援部長・伊那養護学校教諭)<br>・養護学校では現場実習を繰り返し、実習先企業等と密に情報共有を図りながら進路指導を行っている。本人が自分に合った職場で長く働き続けられるために、情報共有をこれからも大事に考えていきたい。<br>(イ) 事例提供者より<br>・関係機関同士の情報共有の大切さを感じた。障がい受容が早めであれば早期支援も充実できる。就業まで時間がかかる可能性はあるが、いただいたご意見を参考に支援を充実させていきたい。<br>(ウ) 雇用する企業の視点より(オリンパスサポートメイト(株) 武居グループリーダー)<br>・一般企業で働くための見極めポイントは、①職業準備性の確認、②作業スキル、③バックアップ体制の確認の3点。また職場定着で大事な観点として、①働く土台ができているか、②働く意欲・目的、③支援を受けること、が挙げられる。<br>カ まとめ(宮内就業支援副部長)<br>・たくさんのサービスを誰がどうつなぐのか。丁寧な引継と情報収集が重要である。家族へのアプローチも工夫が必要。本人の力を信じ、成長・発達段階に応じて可能性を伸ばす支援を展開することも大切である。<br>・多様な意見から気づきや発見が生まれ、支援者の知識の蓄積となる場、それが事例検討である。<br>・合同部会で、支援者のネットワークが広がることも、よりスムーズな連携・支援につながっていく。<br>・療育部会では成長ダイアリーの改定を検討している。就業支援の立場からもぜひ意見を出してほしい。<br>・変えられない過去の教訓をもとに、今この瞬間から新しい未来を皆さんとともに創り上げていきたい。<br>3 について<br>(1) SAKURA岡谷センターより<br>・働くことを体験できる出張お仕事体験を始めた。きらりあ、役場、自宅など希望する場所で実施可能である。<br>(2) 上伊那版B型アセスメントについて(就業支援部会事務局より)<br>・標記について、検討グループを立ち上げ、検討していきたいが、よいか。→異論なし。<br>(3) 駒天駅伝大会について(療育部会事務局より)<br>・10月下旬実施予定。障がい者を含む4人以上のチームで参加可能。ぜひ幅広い参加をお願いします。 |                               |      |     |    |                    |
| まとめ    | ・療育、就業という2つの側面から、事例検討を行うことで、切れ目のない支援や、つなぎ、連携、情報共有のあり方やその重要性について、認識を深め、他領域の支援者とのネットワーク作りの一助になった。   |                               |      |     |    |                    |
| 次回     | ・両部会とも、詳細が決まり次第、お伝えする。  |                               |      |     |    |                    |